

日米安全保障協議委員会共同発表  
変化する安全保障環境のためのより力強い同盟  
新たな日米防衛協力のための指針(抜粋)

2015年4月27日  
岸田外務大臣  
中谷防衛大臣  
ケリー国務長官  
カーター国防長官

## 1. 概観

2015年4月27日、ニューヨークにおいて、岸田文雄外務大臣、中谷元防衛大臣、ジョン・ケリー国務長官及びアシュトン・カーター国防長官は、日米安全保障協議委員会(SCC)を開催した。変化する安全保障環境に鑑み、閣僚は、日本の安全並びに国際の平和及び安全の維持に対する同盟のコミットメントを再確認した。

閣僚は、見直し後の新たな「日米防衛協力のための指針」(以下「指針」という。)の了承及び発出を公表した。この指針は、日米両国の役割及び任務を更新し、21世紀において新たに発生している安全保障上の課題に対処するための、よりバランスのとれた、より実効的な同盟を促進するものである。閣僚は、様々な地域の及びグローバルな課題、二国間の安全保障及び防衛協力を多様な分野において強化するためのイニシアティブ、地域協力の強化の推進並びに在日米軍の再編の前進について議論した。

(中略)

## 3. 二国間の安全保障及び防衛協力

閣僚は、様々な分野における二国間の安全保障及び防衛協力を強化することによって同盟の抑止力及び対処力を強化するための現在も見られる進捗について、満足の意をもって留意する。閣僚は、

・弾道ミサイル防衛(BMD)能力の向上における協力を維持すること、特に2014年12月のAN/TPY-2レーダー(Xバンド・レーダー)システムの経ヶ岬への配備及び2017年までに予定されている2隻のBMD駆逐艦の日本への追加配備の重要性を強調した。  
これらのアセットは、連携の下で運用され、日米両国の防衛に直接的に寄与する。

(以下略)